

名古屋芸術大学グループ 21 November 2012 通信

Close up! NUA-ism

～進化する「名古屋芸大」のDNA
NUA-OB
 もの造りには言葉(コミュニケーション)が大事。
 富田哲男
NUA-STUDENT
 人と接することが楽しいんです。
 人間発達学部 子ども発達学科 4年
 濱野直

Lecture

【レクチャー】
 特別講義や講演会など
 ■デザインと文化1
 特別客員教授の服部滋樹氏による
 特別講義が開催されました

Activity

【学生演による学外活動】
産学官連携事業
デザイン学部
 ■ 中日本高速道路株式会社
 × 名古屋芸術大学MCD
 産学共同研究課題
 共同制作フッペンとポスターで
 OSキャンペーンを展開
人間発達学部
 ■ 平成24年度名古屋市
 「商店街連携支援事業」に、
 本学と栄町商店街振興組
 との連携事業
 「街なかで、自然とくらしを
 楽しむためのワークショップ」が
 採択されました。

News/topics

ニュース&トピックス
音楽学部
 ■ 特別客員教授 ケイコリー氏の
 公開講座が開催されました
 ■ 第14回 ヒアノサマーコンサートが
 行われました
 ■ Nagoya University of Arts Strings
 第5回定期演奏会が行われました
人間発達学部
 ■ オープンキャンパス
 2012.8.25が行われました
美術学部・デザイン学部
 ■ オープンキャンパス
 2012 [サマー編II]が行われました
 ■ “みんなが芸大生になる日”
 「一日芸大生」が開催されました
 ■ 2012年度 愛知県高等学校造形研究会
 「高校生美術・デザイン系夏期講習会」が
 開催されました

グループ校特集
 名古屋芸術大学 保育・福祉専門学校
 滝子幼稚園実習について
 保育科教員 宇佐美 すみれ
コラムNUA
 感性の大学
 デザイン学部教養部会教授 依田義丸

Master 2 Artist

マスター2アーティスト
 愛するということ
 大学院音楽研究科 器楽専攻
 音楽学部 ヒアノコース
 教授 河原元世

Information

インフォメーション
 ■ アワード
 ■ アート&デザインセンター 2012
 展覧会スケジュール(11月~3月)
 ■ 2012年度 音楽学部
 演奏会スケジュール(11月~3月)



就職 + 将来設計 になりたい自分への道筋をチェック&サポート キャリア・サポート活動



名古屋芸術大学グループ

<http://www.nua.ac.jp>

■名古屋芸術大学/大学院:音楽研究科 学部:音楽学部 ■名古屋芸術大学保育・福祉専門学校
 美術研究科 美術学部 ■名古屋芸術大学附属クリエティ幼稚園
 デザイン研究科 デザイン学部 ■滝子幼稚園
 人間発達学研究科 人間発達学部 ■名古屋音楽学校(名古屋芸術大学 栄 サテライト)



就職 + 将来設計

なりたい自分への道筋をチェック&サポート

キャリア・サポート活動

景気の停滞が続くなか、企業の新卒者の採用縮小、非正規社員の増大、通年にわたる中途採用の活発化など、新卒者の就職活動を取り巻く環境は、従来にも増して難しいものがあります。就職を考える学生、あるいはご父兄の中にも、今後の就職活動をどのようにすればいいのかわからない、心配されている方がいらっしゃるのではないのでしょうか。本学では、学生支援課が中心となってさまざまなキャリア支援を実施しています。従来から行われている、個人の能力に合わせた就職先の紹介や斡旋はもちろん、1年次から自分のキャリアについて考えるガイダンスなど、学生それぞれの意志、環境、能力を確認してはくむ施策を用意しています。また、今年度からは、自分のキャリアについて、より具体的に考え伸ばすことのできるカリキュラム「キャリアデザイン講座」を開設しています。

今号特集ページでは本学のキャリア・サポートの取り組みについてご紹介します。

いま

自分に何ができるのか、それをどう活かすかを考える

菅嶋 康浩
学生部長 教授



自分に何ができるか、それをどう活かすか、将来の自分の生き方を考えることがキャリアデザインです。その実現を支援することがキャリアサポートと考えています。

本校は音楽・美術・デザイン・人間発達の4学部があり、異なる特徴を持っています。就職を考え始めるのは人により違っています。従って、キャリアサポートの内容やタイミングもそれぞれに応じていかなければなりません。

これらを踏まえて、本学では学生の多様な状況に対応できるキャリア・サポートを実施していこうと取り組んで

います。1年次から、適宜ガイダンスを行うのに加え、必要と思ったそのタイミングで学生支援課が対応できるような体制を整えたいと考えています。

キャリアデザインのガイダンスでは、その時点で就職について考えていない学生にも、自分の方向性を確認していくための機会として、捉えて欲しいと思います。自分が身につけたものを活用し社会で逞しく生きていける力をつけること、それをしっかりと支援していけるようにしたいと考えています。

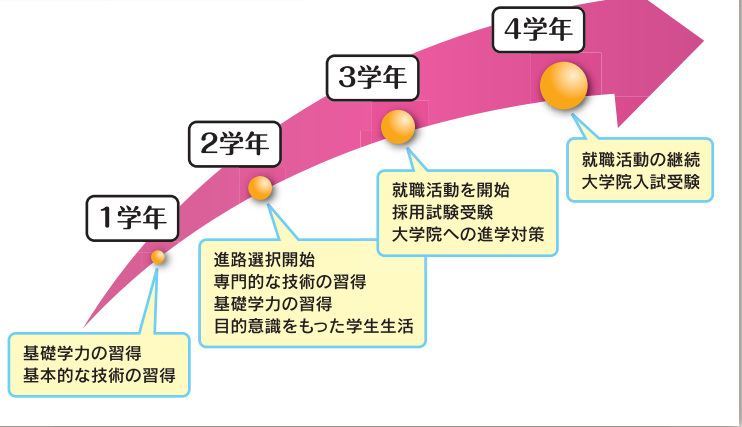
▼学年ごとのサポートを実施

本学では、学生支援課が中心となって、就職活動や進路の決定が行えるように、学年ごとに一貫した、キャリア・サポートプログラムを実施しています。各学年でサポート活動を実施することにより、自分の進路、将来へのキャリアについて意識することができ、もしも進路に変更があった場合でも円滑に対応できるような環境を整えることとなります。

学年ごとに行われる行事は別表にまとめられた内容で、年次に合わせてより具体的になっていきます。1学年では、基礎的の学力についてと自分の意志を見つめる機会としての意識調査やガイダンスを行います。2学年では、意志確認に加えてより具体化させたガイダンス、講座などでのアドバイスやインターンシップなどを行い、進路への自覚を高めます。3学年以降は、就職活動のスケジュールやエントリーシートの書き方、面接対策、模擬試験など、実地の就職ガイダンスを実施しています。

Aa 学年に応じて
さまざまな
キャリア・サポート
行事が
実施されている

就職活動の位置づけ



- ### 1 学年
- 就職、進学に対する意識調査
 - キャリアガイダンス
 - 業界の情報収集
 - 就職支援資格取得講座 など

- ### 2 学年
- 進路ガイダンス
 - キャリアガイダンス (今後のスケジュールなど)
 - キャリアガイダンス (美術デザイン業界・職種など)
 - キャリアガイダンス (今の自分について考えてみよう)
 - キャリアガイダンス (私なりのキャリアデザイン)
 - 就職、進学に対する意識調査
 - 効率的な情報収集
 - 志望業界の情報収集
 - インターンシップへの参加
 - 就職支援資格取得講座

- ### 3 学年
- 就職ガイダンス
 - 就職活動のスケジュール
 - 就職活動の流れ・進路調査
 - 就職適性・自己分析テスト
 - ポートフォリオ対策講座①②③
 - 就職活動の進め方・就職ナビの活用
 - 求人の方、エントリーシートの書き方
 - エントリーシート攻略テスト
 - 適性試験対策
 - SPI模擬試験
 - クリエイティブを活かして働く
 - ポートフォリオのまとめ方
 - 面接試験対策
 - ビジネスマナー講座①②
 - インターンシップへの参加
 - 求人票の活用
 - 大学検索システムの活用
 - 企業説明会の実施
 - 就職支援資格取得講座 など

- ### 4 学年
- 就職ガイダンス
 - 状況調査・現状と今後について
 - 就職リスタートガイダンス
 - インターンシップへの参加
 - ハローワーク説明会
 - ハローワーク登録会
 - 就職支援資格取得講座 など

▼個人に合わせた支援

インターンシップなどは、学部の実情に合わせてカリキュラムの中に反映させることで実施されています。4年間を通して、順次積み重ねていくような施策を実施していますが、現実的に問題がないわけではありません。芸術大学という特性上、学部によっては“就職”という形態をキャリアの終点に置いていいのかという問題があります。実際問題として、より専門性の高い授業を展開するほど、課題や制作に没頭するほど、特に美術、音楽学部の学生では就職という意識は薄らいでいく傾向があるといえます。現実としては、作家、演奏家としてやっていける人材は一握りです。本人の能力に加え、家族や社会の状況にも左右され、意志だけではままたまらないのが実際です。そういった場合でも、進級などの節目で、意志と状況を確認していくこと

が本学のキャリアデザインの特徴といえるでしょう。職員、教員も学生と一緒に考え、進路に変更があった場合には目指す方向へサポートする。そのためのサポート体制の見直しと強化を随時進めています。



Aa それぞれの
事情に合わせた
支援体制を整える。
ガイダンスや
多様な
資格取得講座を
開設

▼ キャリアデザインのカリキュラムへの反映

キャリア・サポートは、これまで学生支援課が中心となって展開してきましたが、その支援活動への参加は学生の自主性にゆだねられていました。そのため、問題意識の高い学生は早い段階から支援を利用することができますが、全ての学生が高い目的意識を獲得するまでに至っていないのが、現状といえます。そこで、カリキュラムの中でキャリアについて考えることができる講座を設け、学生たちが選択しやすくしようと考えました。そういった考えで開かれたのが「キャリアデザイン講座」です。企業経営や社会の

最前線で実際に働いているOBを講師に迎え、教員だけでは伝えきれない、企業の実際、必要な能力、さらに具体的に欲しい人材についてなどを、グループワークを通して学生たちに伝えるという試みが今年度から始まりました。ファッションブランドの戦略や小売店の改善提案を考えるという具体性の高い課題を通し、組織の一員としてグループで調査、意見の集約、プレゼンテーションを行い、職業観を育み、自ら考えること、他者とのコミュニケーション能力を強化します。



チームで課題に取り組む。チーム内での意見集約、プレゼンテーションなどでコミュニケーション能力を強化。実際に社会で必要な能力を養う。



▼ どんな現場でも必要な能力を高める



今回のキャリアデザイン講座は、1年生のみ履修可能な講座となり、難易度が高すぎるのでは、という危惧もあったそうですが、実際には学生たちに非常に伸びたという評価が得られています。講座最後には、先輩にあたる3年生や専門の先生の前でプレゼンを行いました。制作の力量に差はあるものの、チームとしての取り組み、リサーチの進め方、プレゼン能力など、1年生のレベルを大きく超えた内容に驚きの声が聞かれました。あらためて、目的意識

の高さや、キャリアの方向性を自覚して参加することの大切さが確認されました。今回は、デザイン学部が中心となる課題となっていますが、求められるのは、コミュニケーション能力やプレゼン能力を高めること、あるいはチームで取り組むことなど、どの現場でも必要なことです。一つ一つの制作スキルではなく、それらの方法を培うため、それぞれのコースに合わせた課題を来年度は準備しています。

キャリアデザインの第一歩を踏みだそう!



自分の将来について考えよう

キャリアデザインというのは、就職だけに留まらず、自分の将来を考えることです。自分が将来どんなふうになりたいか、そのために自分が今取り組んでいることは正しい方向なのか、そういったことを考えることが、キャリアデザインのスタートだと言えます。大学の4年間は、自分の意志で決断できる、自分のことだけを考えることができる貴重な期間です。自分に何ができるのか、ちょっと立ち止まって考えてみてはいかがでしょうか。



キャリアデザイン講座を受講して

高橋 沙英(さえ)さん
デザイン学部



最初に初対面同士でチームを組み、毎日、話し合って課題に取り組みました。休み時間も集まり、各自で調べた内容について意見を出し合いました。授業では、そのまとめを見てもらい、指導してもらおうという進め方です。チームで取り組むこ

とが初めてだったので、最初はすごく揉めました。でも、続けるうちに自分では思いつかない意見や他の意見を取り入れて進めた方がいいとわかってきました。遠慮してしまうと良い案が出ないので、意見を出し合う方が良い企画になっていくとわかりました。最初はチーム内で自己紹介するのもすごく緊張して上手くできなかったと思います。しかし、講座の終わる頃には誰もが3分間スピーチができるようになっていて、みんな成長したなと実感しました。先生に、考えたことや調べたことなどをまとめたデザインノートを作るように言われ、就職の時にポートフォリオよりもインパクトがあると教えていただきました。これからも続けていこうと思います。

藤木 良壮(よしたけ)さん
デザイン学部



自分にとっては初めてのグループワークでした。人と話したり、自分の意見を言うことも、あまり経験がなかったので、とてもいい経験になりました。リサーチでは、数値を挙げることの大切さを実感しました。数値を挙げると現実みがでて企画の説得力が増す

ということがわかりました。プレゼンは緊張しました。説明しようと思ったんですが、途中で混乱してしまい失敗してしまいました(笑)。グループワークなのでプレゼンに失敗したとき、他のメンバーにとっても申し訳なかったです。他の大学の友達や、ニュースなどでも1年生の時から就職について行動している学校の話を目にします。名芸ではあまりそういった話がなかったので、できることをやっておきたいと講座を選択しました。実際はもっと厳しいのかもしれませんが、ビジネスの世界の一端を垣間見ることができたのがよかったです。

Entexit エンタジット

Entexitはentrance(入口)とexit(出口)を合わせた造語です。大学の入試(入口)や就職・進学など(出口)の情報をお知らせするコーナーです。

名古屋芸術大学2013年度入試日程

学部	入試種別	出願期間	試験日	合格発表日	
■ 音楽	AO入試(A)(B)	9月13日～9月27日	10月7日	10月12日	
	推薦入試	10月10日～11月1日	11月10日	11月16日	
	3年編入試(前期)	10月10日～11月1日	11月10日	11月16日	
	3年編入試(後期)	1月8日～1月21日	2月6日	2月12日	
	一般A日程 社会人・留学生入試	1月8日～1月21日	2月5日・6日	2月12日	
	特待生入試	1月8日～1月21日	2月6日	2月12日	
	一般B日程 社会人・留学生入試	2月15日～3月22日	3月25日	3月26日	
	■ 大学院 音楽研究科	A日程入試	11月2日～11月16日	12月1日	12月7日
		B日程入試	2月15日～3月22日	3月25日	3月26日
	■ 研究生	研究生入試	2月15日～3月5日	3月12日	3月14日
■ 美術	AO入試	8月2日～8月16日	8月25日	8月28日	
	推薦入試	10月11日～10月25日	11月4日	11月9日	
	3年編入I期入試	10月18日～11月1日	11月10日	11月16日	
	地域入試(浜松・金沢)	11月7日～11月21日	12月1日	12月7日	
	A日程第一方式(センタープラス)	1月10日～1月24日	2月5日	2月12日	
	A日程第二方式(一般試験)	1月10日～1月24日	2月5日	2月12日	
	社会人入試	1月18日～2月1日	2月11日	2月15日	
	社会人シニア・社会人3年編入入試	1月18日～2月1日	2月11日	2月15日	
	3年編入II期入試	1月18日～2月1日	2月11日	2月15日	
	センター利用入試(前期)	1月21日～2月4日	センター試験のみ	2月15日	
	B日程第一方式(センタープラス)	2月21日～3月22日	3月25日	3月26日	
	B日程第二方式(一般試験)	2月21日～3月22日	3月25日	3月26日	
	センター利用入試(後期)	2月21日～3月22日	センター試験のみ	3月26日	
	■ 大学院 美術研究科	I期入試	10月18日～11月1日	11月10日	11月16日
		II期入試	1月21日～2月4日	2月12日	2月15日
	■ 研修生	研修生入試	1月21日～2月4日	2月12日	2月15日
	■ 研究生	研究生入試	2月15日～3月1日	3月12日	3月18日
■ デザイン	AO入試	8月2日～8月16日	8月25日	8月28日	
	推薦入試	10月11日～10月25日	11月4日	11月9日	
	3年編入I期入試	10月18日～11月1日	11月10日	11月16日	
	地域入試(浜松・金沢)	11月7日～11月21日	12月1日	12月7日	
	A日程第一方式(センタープラス)	1月10日～1月24日	2月5日・6日	2月12日	
	A日程第二方式(一般試験)	1月10日～1月24日	2月5日・6日	2月12日	
	社会人入試・社会人3年編入入試	1月18日～2月1日	2月11日	2月15日	
	3年編入II期入試	1月18日～2月1日	2月11日	2月15日	
	センター利用入試(前期)	1月21日～2月4日	センター試験のみ	2月15日	
	B日程第一方式(センタープラス)	2月21日～3月6日	3月15日	3月18日	
	B日程第二方式(一般試験)	2月21日～3月6日	3月15日	3月18日	
	センター利用入試(後期)	2月21日～3月6日	センター試験のみ	3月18日	
	■ 大学院 デザイン研究科	I期入試	10月18日～11月1日	11月10日	11月16日
		II期入試	1月21日～2月4日	2月12日	2月15日
	■ 研修生	研修生入試	1月21日～2月4日	2月12日	2月15日
	■ 研究生	研究生入試	2月15日～3月1日	3月12日	3月18日
	■ 人間発達学部	AO入試	9月10日～9月20日	10月7日	10月12日
3年編入A日程入試		10月10日～11月1日	11月10日	11月16日	
推薦入試A		10月10日～11月1日	11月10日	11月16日	
推薦入試B 社会人		11月6日～11月26日	12月1日	12月7日	
大学入学資格審査入試		11月19日～11月30日	12月5日審査、2月6日試験	2月12日	
一般A日程入試		1月8日～1月21日	2月5日・6日	2月12日	
センター前期入試		1月8日～1月28日	センター試験のみ	2月12日	
センター後期入試		2月15日～3月5日	センター試験のみ	3月14日	
一般B日程入試		2月15日～3月5日	3月12日	3月14日	
3年編入B日程入試		2月15日～3月5日	3月12日	3月14日	
■ 大学院 人間発達学研究科		一次入試	9月10日～9月20日	10月7日	10月12日
	二次入試	11月6日～11月26日	12月1日	12月7日	
■ 研究生	研究生入試	2月15日～3月5日	3月12日	3月14日	

※(注)各入試で実施されるコースや専攻の詳細及び指定校推薦など上記以外の入試については、学生募集要項を参照してください。

Close up!

進化する「名古屋芸大」のDNA

NUA-ism



サンライズエクスプレス (JR西日本) 1998年

ミサワホーム株式会社からの依頼で、新素材 (Mウッド) のPRより参加。実際の車両制作にも立ち会い、現場に泊り込むこともしばしばだったという。1998年、グッドデザイン金賞を始め、鉄道車両に贈られるさまざまな賞を受賞。



Vol.43
NUA-OB

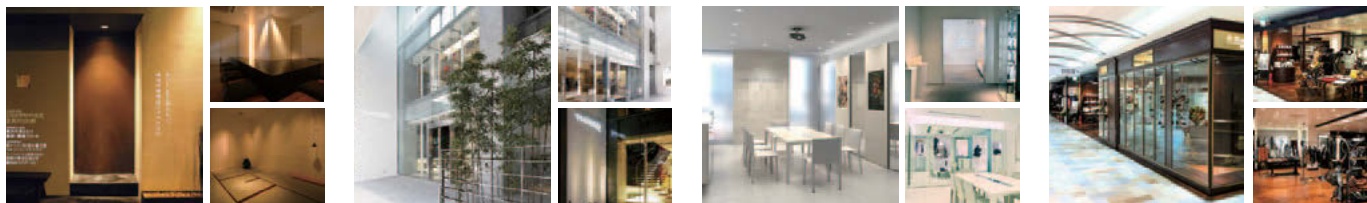
富田哲男

(とみた てつお)
(有) デコムデザイン代表

- 1954年 名古屋市生まれ
- 1978年 美術学部デザイン科卒業
- 1984～92年 (株) ヨコタデザインワークスタジオ 在職
- 1992～98年 (株) MDS 参画
- 1998年 サンライズエクスプレス (JR西日本)、グッドデザイン金賞
- 1999年 (有) デコムデザイン設立
- 2001年 デコムデザイン法人化

現在は、自身で設立したインテリアデザイン事務所、デコムデザインにて、商業空間・住宅・公共施設等の建築及びインテリアに関するデザイン・設計・設計監理、家具・照明器具等のプロダクトデザインの設計・製作・販売を行っている。東京都内、多数のレストラン、ショップ、オフィスなどを手がける。アルカード (ジョービングモール)、ウォルトディズニー、クリスチャンディオール、スタンダード&ブラス等のオフィスなど。

もの造りには言葉(コミュニケーション)が大事。



山田チカラ・南麻布 (創作スペイン料理) 2007年

SA-A BLDG. 新潟古町 (テナントビル) 2006～2008年

スワロフスキー 本社エレメント事業部ショールーム 2012年

ナノユニバース ザ ファーストフロア アトマルヒロ 2012年

お話を伺うため経営するデザイン事務所へお邪魔した。東京都港区南青山、デザイン事務所……、絵に描いたようなとはまさにこのことで、テレビのドラマで見かけるような土地柄だ。どんな人だろうという興味と同時に、第一線で活躍し続けるOBを頼もしくも感じていた。

「最初は名古屋の会社に勤めて、3年も経たないうちに東京へ出てきました。今考えると、無茶苦茶ですよ。会社辞めて、車を売って4ヶ月分くらいの生活費を作って、生活費がなくなりかけた時に、やっと仕事が見つかって……」 1978年、第5期卒業生にあたる。当時の学校にはプレハブの校舎が点在していたそうだ。学生時代から頭の中はデザイン一色だった。そして大きな影響を受けていたのが桑沢デザイン研究所だった。「憧れましたね。デザイン関係のどの本を見ても「桑沢」の文字があった。東京へ出てくる前も、刺激を受けるため年に2、3回は名古屋から東京へ遊びに来てたんですが、どうしても東京で仕事をしなくなってね。運もよかったですね。友人の紹介で桑沢卒業生の集まりに出入りするようになって。

横田凌一、北岡節男、森田正樹、3人のデザイナーに憧れて、東京へ来たんですよ」そして、巡り合わせに導かれるように横田凌一の下で働くことになる。ヨコタデザインワークスタジオ在籍中には、東海銀行、シティーバンク、DCブランドのブティックなど大きな仕事も任せられ、チーフとなっていた。順風満帆にキャリアを重ねて、というわけにはいかない。何年か働くうちに独立したいという気持ちが大きくなり、仲間との共同経営という形で最初の会社、MDSを立ち上げる。だが、バブルが弾けた90年代、会社の経営は安定せず7年間で解散。その後、デコムデザインを自宅を始め、現在に至っている。決して平坦な道ではなかった。「インテリアの業界は資格はいらないですしね、人との出会いというかそういう部分でうまくいけば何とかなる。自分に運があったのかどうかはわかりませんが……」 「運」という言葉を口にしたが、その運をたぐり寄せたのは行動力と情熱に違いない。学生時代のポートフォリオをいまだ大切にしていた。デザインという仕事に対する一途さと誠実さが、色あせることなく瑞々しく綴られている。

「スタッフに絶えず言うんですけど、どういいう職業でもコミュニケーションだと思うんです。デザイナーというのは、作家とは違うんです。人から仕事をする機会をもらって、相手のニーズを聞き取って、それを形にして返す仕事です。そのためには必ずコミュニケーションが発生します。コミュニケーション能力、それしかないです。コミュニケーション能力、それしかない」とすら思っている。「デザインは相手がいって成り立つ仕事。どう思っているか探らなきゃいけない。どれだけ多くを掴み取れるかです。それから、プレゼンもしなければいけない。作ったもの以上に相手に伝えられるは「言葉」だと思うんです。言葉の力、それしかない」 独りよがりでは成り立たない仕事。「作ったもの以上に言葉が大事」 いいものを作るのには、考えに考え抜き、自分のありったけを振り絞るのは当然だ。そして、その上で「言葉」が必要なのだという。冷静に経験を振り返るようにして発せられた言葉は、あまりにも重かった。

「人がいいものを出したら自分はそれ以上のものを、負けないように努力していかないと。負けず嫌いなんですよ」 情熱は変わらない。

人と接することが楽しいんです。



Vol.44
NUA-STUDENT
濱野直
(はまの ただし)
人間発達学部子ども発達学科
4年



サークルは人形劇。ボランティアで学校近隣の児童館やJR名古屋タカシマヤなどで公演。「自分でいうものなんですけど、どこでやっても大爆笑なんですよ!」



ー全身、真っ赤だね(驚)!

その日あった人から必ず声をかけてもらえるんで。今日は赤ですけど、原色の服が好きで、ハロウィンの時期は紫とオレンジ、クリスマスの時期は緑と赤だったりするんです。もうこれだけで、会話のネタになりますよ。オープンキャンパスの時オレンジのパンツを履いていて、先輩から聞いたんですが、その高校では"オレパン"とあだ名されていたみたいで(笑)。それ以来、オープンキャンパスはオレンジのパンツと決めてます。目立つから、人に声をかけてもらえる。今の1年生たち

ともオープンキャンパスの頃からつながってるし。普段、学食なんかで会ったときにも気軽に会話できて、いろんな情報も交換できる。こういう格好してると意外に便利なおももあるんですよ。

ーコミュニケーション能力はバッチリ

しゃべらないとソンかなあつと、思うんです。小さい頃から、人としゃべったりするのが好きで、中学の頃も大抵のクラスメイトと仲良くなれた。それで、人と接する仕事に就きたいな、と思ってます。いろんな価値観がもらえるし。

ー就職活動はどう? 厳しい?

知多市役所と教員採用試験を受けて、両方とも残念ながら落ちました。筆記でもうちょっと点があげばよかったかもしれないので、惜しいことしたなと……。

ーやっぱり先生

最初は保育士になるつもりだったのですが、名芸に入って幼稚園、小学校の免許を取得できることを知り、3つの免許を取得することに決めました。取得に際して、幼稚園、児童養護施設、老人介護

施設、特別支援学校、小学校と様々な職場を体験することができました。その先々でそれぞれの仕事の魅力や自分がこの仕事を行うなら……と考えることができましたし、実際に働いている人の姿と声を見て聞けたので、名芸に入って本当に良かったと思いました。いろいろな実習先で得た経験は、今後生きていくにあたって、とても大切なことだと思います。

ー子どもと接して

来年は常勤講師に登録するのではなく、知多市の臨時職員公募の中から小学校の事務や、児童指導員など免許を生かしつつ、子どもと少しでも接することのできる仕事をしながら採用試験に向けて勉強をしたいと思っています。高校の先輩たちがストレートで受かる人が多くて焦っていたのですが、試験に落ちて院に進んだ先輩や、同い年で今年大学1年生もいるし、いい機会だと思うので、焦らず落ち着いて1年自分の気持ちの整理と確認、そしてこれからのことをゆっくり考えていきたいと思っています。

濱野くんに関きました。



ファッションチェック!



「赤が好きなんです。元気になるので!」文字どおり、頭の先(帽子)からつま先(靴)まで赤で統一されたファッション。当然、靴もその中身も真っ赤!

持ち物検査



「懐中電灯、軍手、地震とか起きたら……」●バンパンの靴、「通帳も、手帳も、保険証も、大事なもん全部入ってる(笑)」●弁当箱も赤「自分で詰めてくるんですよ。全部マンガにつき込みたいんで(笑)」

お小遣い・アルバイト

●お小遣い 1万円/月
●アパート等家賃 0万円/月
(実家の知多から通学片道約1時間)
●アルバイト 「英検の試験官、日雇いのバイト、学童保育、ホームフレンドなどをやっています」

Lecture

【レクチャー】
特別講義や講演会など

デザインと文化1 特別客員教授の 服部滋樹氏による 特別講義が開催されました

クリエイティブユニット graf の代表を務める服部滋樹氏の特別講座「デザインと文化1」が、2012年7月21日(土)本学西キャンパスにて開催されました。

1998年に大阪の南堀江にスペースデザイン、家具、照明、グラフィック、プロダクトデザイン、アートから食に至るまで、「暮らしのための構造」を考へてものづくりをするクリエイティブユニット“graf”代表の服部滋樹氏。アーティスト奈良美智氏と青森県弘前市でアートプロジェクト「AtoZ」を展開したり、瀬戸内国際芸術祭では、京都のダンスカンパニー・モノクロームサーカスと「直島劇場」を企画するなど領域を越えて精力的な活動を続けています。

今回の特別講義では、grafが手がけたプロジェクトから、2011年に発表された最新シリーズ『TROPE』と『FANTASTIC MARKET』、『SOUND MAP-workshop』、『THE BIG ISSUE』などの取り組みについて紹介がありました。

最初に紹介された『TROPE』は、身の回りにある「暮らしの知恵」からヒントを得て、使い手に道具を使いこなしてもらうことを目的としたプロダクト。

現代の日本には、道具の量が増え過ぎていると服部滋樹氏は言います。例えば、パスタを茹でるなら専用のパスタパンが必要と考へてしまう。鍋ひとつあれば事足りてしまうことなのですが、このような意識を基に行動をとってしまいがちです。「昔は暮らしの知恵があり、1つのモノで何通りにも

使うのが当たり前だった。道具が細分化されれば、人は考へることをやめてしまいがちです。知恵のある“いい生活”が少なくなっていることはとても危険なことです。そんな状況の中で、『TROPE』は“工夫をして暮らしてみる”をテーマに、生活の隅々にトラップを仕掛けてみる試みをしました。」と服部滋樹氏。

具体的には人の動きを調査し、新しい動き、行動の間隔などを記録します。一般的な高さ45センチのイスを“10センチ高くしてみたら”や、ガラスのコップの重さが“もし1キロだったら”、異常に重いドアや異常に軽いドアなど、身体記憶を狂わせる行為により考へることが始まり、カラダが勝手に記憶していることを呼び覚まさせるかもしれません。「この身体記録を含む暮らしの知恵は引き続き調査しています。今回、この『暮らしリサーチ』の調査を手伝ってくれる研究員を名古屋芸大でも募集します。」と、服部滋樹氏は学生たちにプロジェクトへの参加を呼びかけました。

次に紹介されたのは『畑』のプロジェクトと『FANTASTIC MARKET』。「この畑は、某雑誌社が企画した畑のプロジェクトに小屋作りで参画したのがきっかけです。最初は見よう見まねでやってみました。まったくの素人だったため思うように育ちません。知り合いの農家の人たちから野菜作りのポイントや、種を蒔いたり定植する時期などを学びました。土の大切さも身をもって知り、時間を掛けて改良を重ね、二年目には一年目で作った作物とは明らかに育ちの違う、味が濃く風味が強くなった野菜を収穫することができました。」こういった経験から生産者の方への敬意が深まっただけでなく、自分たちのクリエイティビティをその土壌（環境）から見つめ直すいいきっかけになったと服部滋樹氏。この畑のプロジェクトを紹介する展示会が開催され、その時にイベントとして行ったマルシェが、現在のFANTASTIC MARKETというプロジェクトに発展しています。



- 1 2012年度デザイン学部特別客員教授の服部滋樹氏
- 2 使い手に道具を使いこなしてもらうことを目的としたプロダクト「TROPE」
- 3 「FANTASTIC MARKET」で取り組んだマルシェ
- 4 「THE BIG ISSUE」でユニホームの代わりにデザインしたチーフと缶バッジ
- 5 佐藤准教授、水内講師との対談シーン
- 6 「SOUND MAP-workshop」の手法を解説する服部氏



「出会い、繋がる、広がる」をキーワードにマルシェ形式での開催を基本としながら、生産者と消費者が直接出会う機会を作るとともに、生産者同士が出会うきっかけとなっています。

「新しい関係性を築く環境として機能しながら、同時にgrafの活動の在り方についても考えさせるコミュニティ型のプロジェクトとして取り組んでいます。体験した事の無いことを体験する。自分で作った作物を旨と感じる。そんな経験が次のコミュニティを繋ぎ、社会の仕組みを変えて行ってくれると信じています。」と、服部滋樹氏はこのプロジェクトの意義を伝えました。

講義前半の最後に紹介されたのは、ホームレス者の社会復帰プロジェクト『THE BIG ISSUE』。イギリスでスタートしたこの仕組みは、ホームレス者が雑誌「BIG ISSUE」を販売することで収入を得、経済活動に加わることで社会復帰への足掛かりとします。今回は世界に先駆け、店舗型の売り場を大阪梅田の地下街に設け、ホームレス者は共同経営者として加わる取り組みです。その店舗デザインなどをgrafが担当。ホームレス者に事前に調査したなかで、服部滋樹氏が気になったのは「お釣りを渡す際に汚いと思われるので手袋をしている」といった販売員の言葉。販売する彼らの気持ち

を考へ、さっそく服部滋樹氏たちはユニホームを作ることを提案しました。ただし、ユニホームを作る予算が捻出できなかったため、白地にグレーのバイアスのチーフと缶バッジを作成してユニホームの代わりとしました。

服部滋樹氏はこのプロジェクトを通して、「人はスイッチの切り替えで気分が変わります。ユニホームはそのスイッチの切り替えに適しています。例えば、ビジネスマンはスーツにネクタイを締めることで仕事モードに切り替えます。このように、事前にしっかりと調査して問題を発見する。そして、デザインで問題を解決に導くことがデザインの役割だと考へます。なお、現在ではコミュニティごとに合った調査方法が必要になってきていますね。」とコメントしました。

講義後半では、担当講師の佐藤准教授と水内講師との対談形式で、受講者からの質問に答えました。質問に答えながら、デザインへの取り組み姿勢やデザインの持つ可能性について、ユニークな独自視点を展開。西洋包丁と和包丁の違いやラーメン鉢の優れた機能性についてのお話では、生活道具への考察の鋭さを伺うことができました。受講者たちは小気味よい服部滋樹氏の話に惹かれ、楽しみながらこれからのデザインの役割を学びました。

デザイン学部

中日本高速道路株式会社
×名古屋芸術大学MCD
産学共同研究課題
共同制作ワッペンとポスターで
CSキャンペーンを展開

本学デザイン学部メディアコミュニケーションデザインコースは、今年度、中日本高速道路株式会社との産学協同研究に取り組んでいます。産学協同研究のテーマは「高速道路休憩施設における心地よく楽しめるビジュアルコミュ

ニケーションメディアの提案)です。

今回、その研究課題の一つとして、中日本高速道路株式会社がお客様へのサービス向上を図る『CS向上キャンペーン』で、意識改革を行うために着用するワッペ

Activity

【学生達による学外活動】
産学官連携事業

ンのデザインを、本学MCDコースの学生たちが考案しました。

学生たちのグループワークにより提案されたデザイン案の中から、去る6月の審査会を経て、このたび、キャラクターとして〈おはなくんワッペン〉(ワッペンは7000個制作)とCS向上キャンペーンポスターが制作されました。

7月10日より、中部圏の高速道路エリアと中日本高速道路株式会社の社内全ての人々が、このプロジェクトで作成されたワッペンをつけてキャンペーンを行いました。

高速道路でお出かけの際、このワッペンやポスターをご覧になった方もおられることと思います。



1 <CS向上キャンペーン>ポスター
2 <CS向上キャンペーン>バッジ
3 ワッペンとポスター案を示して説明するチーム
4 バッジ案を持ってプレゼンするチーム

人間発達学部

平成24年度名古屋市「商店街連携支援事業」に、本学と栄町商店街振興組合との連携事業「街なかで、自然とくらしを楽しむためのワークショップ」が採択されました。

名古屋市の栄町商店街は、地上と地下の高層に集積する超広域型の日本有数の商業スペースです。だからこそ、ヨーロッパの都市にひけをとらぬ芸術的な格調高い街づくりを目指して努力を続けています。

この度、地球の荒廃に危機感を募らせている名古屋芸術大学人間発達学部の教員有志と学生から

る「自然とくらしを楽しむ会」は、「栄町商店街振興組合」と連携して、街なかで住み、働き、子育てをしておられる方々と、季節、月ごとの自然とくらしの逞しさ、楽しさを学ぶとともに、この街に息づく自然と歴史あるくらしやエコ・ショップを発見し、記録し、楽しく新しい栄町のMAPづくりを企画しました。

以下のような予定で、講話とワークショップが行われます。
毎月第一土曜日
pm 1: 30~2: 30 / 「月々の自然とくらし」の講話/講師: 近藤宏
pm 2: 40~4: 00 / ワークショップ/講師: 福岡龍太 他

場所

- ① 9月1日(土) / 三井住友銀行 SMBCパーク栄 / “講話および地図から栄発見”
- ② 10月6日(土) / 朝日神社 / “講話および栄の自然見つけ”
- ③ 11月3日(土) / 朝日神社 / “講話および栄の自然見つけ”
- ④ 12月1日(土) / 三井住友銀行 SMBCパーク栄 / “講話およびリースづくり”
- ⑤ 1月5日(土) / 三井住友銀行 SMBCパーク栄 / “講話および栄のくらし見つけ”
- ⑥ 2月2日(土) / 三井住友銀行 SMBCパーク栄 / “講話および栄のお店見つけ”

- ⑦ 3月2日(土) / 三井住友銀行 SMBCパーク栄 / “講話およびMAPづくり”



News & Topics

ニュース&トピックス

音楽学部

特別客員教授
ケイコ・リー氏の
公開講座が開催されました

2012年7月5日(木)本学東キャンパス2号館で、特別客員教授ケイコ・リー氏の公開講座が行なわれました。

ケイコ・リー氏は、21歳から独学でピアノを始め、ピアニストとしてジャズやシャンソンの伴奏を経験した後、徐々にシンガーへと転向。95年のデビュー作『イマジン』以来、多くの作品をリリースしています。存在感のあるヴォーカル・スタイルとディーブ・ヴォイスで高い評価を得ています。2003年5月のスイングジャーナル誌主催「日本ジャズメン読者人気投票」では、女性ヴォーカル部門の第1位に加え、総合部門の頂点でもある「ジャズマン・オブ・ザ・イヤー」、「アルバム・オブ・ザ・イヤー」の三冠を獲得。2009年5月には同人気投

票女性ヴォーカル部門で堂々13年連続の第1位に輝きました。実力・人気ともにNo.1 ジャズ・ヴォーカリストとして国内外での地位を確立しています。

今回の公開講座は、ジャズ・ポップスコースの学生を対象にしたケイコ・リー氏によるヴォーカルレッスンです。ピアノ伴奏は名古屋を中心に活動するジャズピアニストの後藤浩二さんが務めました。

最初にレッスンを受けたのは、桑原知代さん(3年生)。曲は「Lullaby of Birdland(ララバイ・オブ・バードランド)」で、桑原さんのヴォーカルを聴いたケイコ・リー氏は、「フレーズの最後が全て短く切れるので長く伸ばすように。逆にフレーズの頭は大きぐらにアタックしてみて。それから、喉を太い筒のようなイメージで声を出すように。あくびをすするときと同じくらい喉を開いて太い声を出すようにしてみてください。」とアドバイス。さらに、「ジャズ・ヴォーカリストの名唱を聴いてまねてみて。例えばヘレン・メリルとか。理屈ではなく自分で感じてみるのが大切です。」とコメントを加えました。また、声量不足が気になるとして、離れた場所のケイコ・リー氏の手のひら目がけて声を出すユ



1 日本を代表するジャズ・ヴォーカリストのケイコ・リー特別客員教授
2 桑原知代さんのレッスンの様子
3 喉の開きをチェックするケイコ・リー氏
4 藤村克弘さんのレッスンの様子
5 声量をパワーアップするレッスン。ケイコ・リー氏の手のひらに声をぶつけるイメージトレーニング
6 稲田由花里さんのレッスンの様子
7 4曲目「Gee Baby, Ain't I Good to You」では、ダニー教授のピアノも楽しめた



ニークな練習も披露しました。

次にレッスンを受けたのは、藤村克弘さん(3年生)。曲はフランク・シナトラのナンバー「Let Me Try Again(レット・ミー・トライ・アゲイン)」です。

ケイコ・リー氏は藤村さんに「昨年のレッスン(今回が2度目のレッスン)から随分と良くなっています。気になるのはビブラート。ムード歌謡のようになるの要注意。そして、歌いあげずにウィスパーで歌うといい。ただし、声量がパワーダウンしないように。」とアドバイス。見違えるよ

うに艶やかで伸びやかな歌声に変化した藤村さんのヴォーカルに、講座聴講者も驚きの表情でした。

3人目の稲田由花里さん(3年生)の曲は、「君の瞳に恋している」の邦題で有名な「Can't Take My Eyes Off You(キャント・テイク・マイ・アイズ・オフ・ユー)」。元気に歌った稲田さんにケイコ・リー氏も「とってもチャーミングな歌い方です。でも、ポップス過ぎるので、80年代アイドルのような癖を取りましょう。悪い癖は取ってしまう!そして、しっかりと基礎を作ること。

ヴォーカルがパワー不足で、途中で声が失速して垂れ下がった感じに聞こえます。また、高音の“イ”や“エ”も詰まりやすいので、あなたも喉を開けることを意識して練習してください」とアドバイス。稲田さんにはテンポをすごく落として歌うレッスンなどで、気になっていた癖が解消されました。

ヴォーカルレッスン終了後は、いよいよケイコ・リー氏のソロヴォーカルが披露されました。

1曲目はジャズスタンダードの「Time After Time (タイム・アフター・タイム)」を披露。2曲目はミュージカル『ポーギーとベス』のナンバーから、とてもキレイなバラード「I Loves You,

Porgy (アイ・ラブズ・ユー、ポーギー)」をしっかりと歌い、3曲目はサイモン&ガーファングルの名曲“明日に架ける橋”「Bridge over Troubled Water (ブリッジ・オーバー・トラブルド・ウォーター)」を自らピアノを弾きながら歌いあげました。そして、ラストナンバーはブルージーな

「Gee Baby, Ain't I Good to You (ジー・ベイビー・エイント・アイ・グッド・トゥー・ユー)」をダニー・シュエッケンディック教授(ジャズ・ポップスコース教授)のピアノで聴かせてくれました。世界に認められているジャズ・ヴォーカリストの歌声に、満席の聴講者は酔いしれていました。

音楽学部

第14回 ピアノサマーコンサートが 行われました

本学音楽学部主催の第14回ピアノサマーコンサートが、8月9日、東キャンパス3号館ホールで開催されました。

このコンサートは、演奏学科ピアノコースの学生のうち、実技試験で選ばれた優秀な学生たちが出演して行われているもので、毎年この時期に開催されています。

ピアノコースでは、ステージでの演奏を教育の重要な位置づけと

して捉え、毎年多くの演奏会を開いています。ステージでの演奏は「これまで培ってきたものを信じ、自信の力で最後まで成し遂げる」その成果を問う場にもなります。

プログラムは、前半に、1年生から3年生までの10名が演奏しました。休憩を挟んで、後半も、1年生から4年生までの10名演奏し、合計20名が出演して行われました。

ひたむきにピアノに向き合い、日々練習に励んでいる学生たちの精一杯の演奏が披露され、ホールを埋めた聴衆から大きな拍手が送られていました。



音楽学部

Nagoya University of Arts Strings 第5回定期演奏会が 行われました

2012年8月30日(木)、名古屋市中区の名古屋電気文化会館ザ・コンサートホールにおいて、Nagoya University of Arts Stringsの第5回定期演奏会が開催されました。

NUA Stringsは、2008年に、名古屋芸術大学アンサンブル研究所に所属する同大学及び大学院弦楽器専攻の卒業生により結成された

アンサンブルで、現在では現役の学生も参加しています。音楽監督に同大学の教授である森典子氏を迎え、年1回の定期演奏会を行っています。

今回のアンサンブルは、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス、チェンバロの構成で、指揮及びヴィオラを同大学の客員教授である林徹也氏が執りました。

プログラムは、前半に、バッハの「ブランデンブルグ協奏曲 第3番 ト長調 BWV1048」と、ブラームスの「弦楽六重奏曲 第1番 変ロ長調 作品18」が、休憩を挟ん



1 「ブランデンブルグ協奏曲 第3番 ト長調 BWV 1048」の演奏
2 「弦楽六重奏曲 第1番 変ロ長調 作品18」の演奏
3 「弦楽セレナード 作品22」で指揮を執る林徹也氏(中央)

で後半は、ドヴォルザークの「弦楽セレナード 作品22」が演奏されました。

弦楽器の織りなすしなやかで叙

情あふれる音色に、満員の客席から大きな拍手が送られていました。夏の夜の時を忘れるコンサートでした。

人間発達学部

オープンキャンパス 2012.8.25 が行われました

人間発達学部の本年度第3回目のオープンキャンパスが、2012年8月25日(土)本学東キャンパスで開催されました。

残暑厳しい日差しの中、午前10時前には、大勢の高校生たちが1号館1階の受付に集まりました。

参加者たちは受付終了後、まず、1号館4階で行なわれる「模擬授業」会場へ移動。2つのコースから好きな授業を受講しました。「保育を心理学の目でながめてみ

よう」をテーマにした授業では、保育は子どもの成長を助ける仕事。心理学を学んで、少し心理学の目でみると、子どもの“すごさ”が見えてくるという内容でした。また「小学校国語科授業の実際」という講義では、小学校国語科で指導する内容について、また、実際の授業で行われる音読発表会を通して、音読の質向上や文学作品の内容理解を図ることなどを学びました。

模擬授業のあとは、それぞれの目的に合わせて自由にキャンパス内を見て回りました。メイン会場の1号館のロビーや教室には、たくさんの体験コーナーが用意され

ています。例えば、2階ロビーではモンテッソーリ教具が並べられ、自由に触ったり、みんなで遊ぶこともできます。童心に返っておもちゃ遊びに夢中になる参加者の姿も多く見かけました。3階ロビーの紙工作コーナーでは、簡単に出来て、楽しく遊べる「ぞうさんてっぽう」を作って遊びました。3階305教室では、「模擬面接」が行われました。入試の面接が実際に体験できるように、本学の教員が面接官となって、3人1組の集団面接をたくさん的高校生が体験しました。調理実習室で行われた「お菓子づくり体験コーナー」では、子どもに人気のオムライスや

アーモンドクッキー作りに挑戦しました。料理作りのあとの試食タイムでは、学校のことや授業、学生生活について在校生から直接聞くことができたこと参加者から好評でした。7階ロビーに設けられた「知りたい事、何でも聞いてコーナー」でも担当教員や在学生が対面で疑問、質問に応えてくれるので、多くの参加者が相談に訪れていました。7階701教室では、「ゼミ発表」の一つとして、「子どもを対象とした劇<白雪姫>」が上演されました。台本、演出、道具、衣装、音響など全て学生たちが考えた、世界で一つだけの「白雪姫」の発表に大勢の参加者が集ま

りました。

11号館で行なわれた「ピアノ相談コーナー」は未経験者にも安心の初歩からのピアノレッスンが受けられます。また、8号館の体育館では参加者を歓迎したダンス部の演技や吹奏楽部による演奏が行なわれ、参加者から大きな拍手が贈られていました。利用者が多いキャンパスツアーは、隣接する付属幼稚園「クリエ幼稚園」を在籍者がコンダクターとして案内します。子どもの視点で施設を説明してくれるので、参加者にとっては意外な発見も多いようです。



- 1 1号館の受付で手続きをするオープンキャンパスの参加者たち
- 2 「モンテッソーリ教具」で遊ぶ参加者たち
- 3 ダンス部の演技
- 4 模擬授業「保育を心理学の目でながめてみよう」
- 5 学生による「何でも相談コーナー」
- 6 「白雪姫」に出演したキャストたち

美術学部 デザイン学部

オープンキャンパス 2012【サマー編Ⅱ】が 行われました

本学美術学部・デザイン学部のオープンキャンパス【サマー編Ⅱ】が、夏空が広がる7月16日(月)に西キャンパスで開催されました。多くのアート・デザイン好きの高校生や保護者が、開場前から詰めかけ、スタートを待ちきれないといった様子。受付を済ませた参加者は、目的のカリキュラムや展示会場へ足早に向かいました。今回のオープンキャンパスの特色は、ワークショップや作品展示が中心になっています。各コースとも趣向を凝らしたワークショップで、参加者たちに日頃どのように制作が行なわれているかを体験してもらいます。

体育館(L棟)をメイン会場とした美術学部のアートワークショップは、透明なガラス板にマジックやアクリル絵の具を使って絵を描く「ガラス絵」(洋画コース)や、和紙を素材に墨、岩絵の具を使い、作品を作りながら技法を学ぶ「岩絵の具体験」(日本画コース)。また、消しゴム版画でオリジナルバッグを制作する「消しゴム版画でエコバックを作る」(アートクリエイターコース/版画・平面)など。参加者たちが無心になって制作に打ち込む姿がとても印象的でした。他にも、美術



- 1 スタート前から総合受付には長蛇の列が並んだ
- 2 ガラス絵(洋画コース)
- 3 岩絵の具体験(日本画コース)
- 4 Art Cafe(アートクリエイターコース/美術文化)
- 5 ピンホールカメラで撮影・現像体験しよう(メディアコミュニケーションデザインコース)
- 6 似顔絵体験(イラストレーションコース)
- 7 シルバーリング製作(メタル&ジュエリーデザインコース)

情報を検索したり、作品鑑賞ができるカフェスペース「Art Cafe(アートカフェ)」(アートクリエイターコース/美術文化)や、吹きガラス体験ができる「ガラス造形制作「吹きガラスに挑戦」」(アートクリエイターコース/ガラス)なども参加者に好評でした。

続いて、デザイン学部のデザインワークショップは、デザイン棟Ⅱ(X棟)を中心に行なわれました。身近なもので作ったピンホールカメラで撮影した写真を、印画紙に現像する「ピンホールカメラで撮影・現像体験しよう」(メディアコミュニケーションデザインコース)や、イラストレーションコースの学生と教員による似顔絵実演が体験できる「似顔絵体験」。さらに、マーカーやパステルを使ってカーデザインの描き方を学ぶ「カーデザイン入門」(インダスト

リアルデザインコース)、自分だけのオリジナルリング作りに挑戦する「シルバーリング製作」(メタル&ジュエリーデザインコース)など盛況で、順番待ちが出るワークショップも目立ちました。他にも、カラフルな紙パイプを使った立体紙制作「ペーパーメイキング」(テキストイルデザインコース)や、ビデオカメラとコンピュータを使ったコマ撮りアニメ「デジタル映像制作」(メディアデザインコース)など、楽しみながら取り組んでいました。

今回のオープンキャンパスに合わせ、デザイン学部の檜原由比子特別客員教授によるカレンダー制作の授業が実施され、最終プレゼンテーションの様子を傍聴することができました。参加者たちは、ビジュアルデザインコース3年生が取り組む、カレンダー制作の発

表を真剣な眼差しで見つめ、檜原氏の講評に耳を傾けました。

また、恒例の「キャンパスツアー」(所要時間約70分)は、西キャンパスのさまざまな場所をくまなく巡り、キャンパス全体の様子を把握できます。メタル工房・セラミック工房・木工房・ガラス工房など、学内の主な工房や施設を見て回ると参加者に好評でした。また、美術学部・デザイン学部の「相談コーナー」では、高校生ら参加者は、自分の持ち込み作品について、各分野の専門講師からアドバイスや講評を受けていました。さらに、両学部の大学情報に関する質問が受けられる「大学情報コーナー」では、入試情報コーナー、就職コーナー、国際交流コーナーなどについて質問が寄せられていました。

美術学部 デザイン学部

「みんなが芸大生になる日」 『一日芸大生』が 開催されました

2012年7月29日(日)、本学西キャンパスで『一日芸大生』が開催されました。これは、小学生(3年

生以上)、中学生、シニア(50歳以上)が参加できる芸大生体験講座です。美術学部とデザイン学部が主催する16講座には、656名もの応募をいただき、その中から約250名の方に参加していただきました。

午前10時から行われた入学式

では、橋本裕明副学長のウエルカムスピーチで始まり、学部長、講師、チューター(補助スタッフ)が紹介されました。参加者たちは各コースに別れ、西キャンパス内の9つの棟の各教室へ移動。さっそく一日芸大生の授業が始まりました。

午前のコース授業①では、当日の取り組み内容や制作工程が説明され、制作準備に取りかかりました。また、12時からの昼食では、学生たちからアイデアを集めた特製ランチを楽しみながら、クラスメイトの自己紹介なども行われました。

昼食後はそれぞれの教室に戻り、受講生は課題の仕上げに取り組みました。その間に子どもたちの保護者は見学ツアーに参加。大学の説明や制作現場の見学が行われました。楽しい時間もあっという間に過ぎ、午後のコース授業②が午後4時で終了。

当日制作した作品などを持ち寄り受講者全員で卒業式が行われました。デザイン学部の落合紀文学部長からの挨拶の後、各コースの実施報告が行われました。参加者の子どもたちは、一生懸命に作った作品を保護者たちによく見えるように大きく掲げ、皆誇らしげな表情が印象的でした。最後に受講生の代表に卒業証書が授与され、チューターや担当教員を通じて全員に渡され一日芸大生が終了しました。

各コースの講座内容は以下のとおり。

◆洋画コース「キラキラアート！」〈対象：小学生・中学生〉
ビーズやバッジ、シールなどキラキラ輝くテキストチャーやアクリル絵の具を使ってBOXをデコレーション。自分だけのオシャレな宝箱を作りました。

◆日本画コース「日本画入門」〈対象：小学生・中学生〉
和紙に墨を使って思いおみのストーリーを描いたオリジナルの絵巻物を制作。保護者には絵手紙に挑戦してもらいました。

◆版画コース「消しゴム版画」〈対象：小学生・中学生〉
消しゴムを彫って作るゴム版画に挑戦。できあがった版画をTシャツやバッグにスタンプしてオリジナルTシャツやエコバックを制作しました。

◆彫塑・立体造形コース「彫刻」〈対象：小学生・中学生〉
地球の生き物たちの中から大好きな生き物の絵を描きます。その絵を見ながらテラコッタ用粘土で

その動物を作ります。作った作品は窯で焼いて後日プレゼント。

◆メディアデザインコース「アニメーション」〈対象：小学生・中学生〉
カメラとコンピュータを使ってコマ撮りアニメを作ります。キャラクターに動きをつけて撮影。専用ソフトを使った編集体験とオリジナルCDジャケットも作成しました。

◆ライフスタイルデザインコース「編集者体験」〈対象：小学生・中学生〉
キャンパス内を歩いて集めたモノの中からテーマを決め、そのテーマに沿ったアイテムをキャンパスで収集して木箱にレイアウト。表紙に自分の顔写真を貼ってオリジナルマガジンを作成。

◆スペースデザインコース「イスのデザインと制作」〈対象：小学生・中学生〉
木と鉄パイプを使ったオリジナルのイスを制作。座面は木をくりぬき、鉄パイプをまげて世界に1脚だけのかわいいイスを作りました。

◆インダストリアルデザインコース「プロダクトデザイン入門」〈対象：小学生・中学生〉
参加者がデザインした木型を使って真空成型体験を行ないます。完成した型にゼラチンを流し入れてオリジナルゼリーを作成。最後はみんなでゼリーパーティーを楽しみました。

◆テキスタイルデザインコース「ミサンガ制作」〈対象：小学生・中学生〉
カラフルな糸を使ってオリジナルミサンガを編みます。編み方はカードに穴を空け、糸を通して紐を織るカードウィーピング（カード織）。今回は四角のカード7枚を使ってミサンガを編みました。

◆ガラスコース「ガラスアート」〈対象：中学生〉

吹きガラス体験では、チューターのサポートを受けながらオリジナルグラスの形成にチャレンジ。参加者は猛暑と高炉の熱と闘いながら、一心に吹き棒を吹き溶けたガラスと格闘しました。

◆メタル&ジュエリーコース「ジュエリーデザイン」〈対象：小学生・中学生〉
ペンダントや指輪などシルバーアクセサリを制作。シルバーの板を糸ノコで切り抜き、丹念に磨き形を整えます。オリジナルジュエリーは特に女の子に人気です。

◆美術文化コース「美術史」〈対象：シニア〉
「一日でわかるバロック絵画」をテーマにした講義では、ルーベンスやレンブラントなど、バロック絵画を代表する巨匠たちの作品とその魅力を学びました。

◆陶芸コース「陶芸」〈対象：小学生・中学生・シニア〉
ロクロを使ってのさまざまな器作りに挑戦。ロクロや土の扱いに

最初は戸惑う参加者もいましたが、土を触っているうちに力の加減が分かってきたようです。作品は後日窯で焼いてプレゼント。

◆メタル&ジュエリーコース「鑄造体験」〈対象：小学生・中学生〉
ロンドンオリンピック開催期間ということもあり、世界で1枚だけのオリジナル記念メダル作りにチャレンジ。今回は砂型を使って鑄造体験をしました。

◆版画コース「シルクスクリーン」〈対象：小学生・中学生〉
参加者がデザインしたイラストをシルク印刷でプリントします。自分の描いたイラストがオリジナルTシャツになって子どもたちも大喜び！

◆アートクリエイターコース「缶バッジ」〈対象：小学生・中学生〉
カラフルなイラストをたくさん描き、それを印刷して缶バッジに仕上げます。イラストが一番のお気に入り額に装丁して参加者へプレゼント。



1 洋画コース「キラキラアート！」
2 日本画コース「日本画入門」
3 アートクリエイターコース「缶バッジ」
4 彫塑・立体造形コース「彫刻」
5 スペースデザインコース「イスのデザインと制作」
6 インダストリアルデザインコース「プロダクトデザイン入門」
7 テキスタイルデザインコース「ミサンガ制作」
8 ガラスコース「ガラスアート」
9 メタル&ジュエリーコース「ジュエリーデザイン」
10 陶芸コース「陶芸」
11 版画コース「シルクスクリーン」

Column NUA No.18

感性の大学

デザイン学部教養部教授 依田義丸



4月に赴任してから、早いもので半年が経ちました。英語教師として前期を無事に終え、後期を迎えるにつけてこの半年の名芸大での教育経験を振り返っておきたいと思えます。

最初の頃は戸惑いがありました。前任校（京都大学）の、知性がすべてだという雰囲気があった世界から、感性の豊かさが中心となる世界に急に移されたせいでしょう。人間の能力の幅について考えさせられました。雰囲気の違いは、英語を実際に教え始めると一層鮮明な形で意識されることになりました。実は、名芸大に英語の教師として赴任するときに、心に決めたことがありました。

可能な範囲で、自分の専門分野であったドラマを英語の授業に使ってみようというものでした。ドラマを使った言語教育は欧米では長い歴史をもっていますが、日本ではなかなか定着してきませんでした。その理由としては、教える側のドラマについての知識不足や、学ぶ側の日本人特有の羞恥心や控えめな性格をすくすく思いつきますが、両者に共通の理由としては、学習に対する考え方があります。つまりは、私たちに根強くある、学校での学習とは頭で学ぶものだという思い込みのことです。20世紀の前半にDeweyが主張した、教育における経験の重要性が十分に認識されてこな

2012年度
愛知県高等学校造形研究会
「高校生美術・デザイン系
夏期講習会」が開催されました

当日は、B棟大講義室に受講生が集合し、午前9時30分からオリエンテーションが行われました。最初に、今回の幹事を務める愛知県立一宮東養護学校の太田先生からご挨拶があり、その後、本学デザイン学部の和田義行教授から、本日のスケジュールと美術・デザイン各講座の指導教員の紹介が行われました。

講習会は、午前10時から12時までの午前の部と、午後1時から3時までの午後の部の2回に分かれて開講され、受講生は、午前と午後でそれぞれ別の講座を受講することが出来る仕組みとなっていました。

美術学部では6講座が開講され

ました。「『想像して、創造する』ばらばら漫画制作」(アートクリエイターコース)、「静物を描こう」(洋画コース)、「彫刻制作」(彫刻コース)、「ロクロの物語」(陶芸コース)、「ガラス造形制作」(ガラスコース)、「日本画技法に触れてみよう」(日本画コース)。

デザイン学部は、「タイムドローイング」(ヴィジュアルデザインコース)、「似顔絵体験」(イラストレーションコース)、「デザイントレ制作」(インダストリアルデザインコース)、「シルバーリング制作」(メタル&ジュエリーデザインコース)の4講座が行われました。

各講座の定員は10名から15名で、それぞれの講座に概ね10名前後の高校生が受講していて、なれない手つきながら、一生懸命に取り組んでいる姿が見られました。

制作終了後、午後3時10分から



1 オリエンテーションの会場風景。和田義行教授(右)、太田先生(中央)
2 彫刻制作
3 ロクロの物語
4 日本画技法に触れてみよう
5 似顔絵体験
6 デザイントレ制作
7 シルバーリング制作



は、教室ごとに作品の講評会が行われ、受講生は指導教員から講評と今後の制作へのアドバイスなどを受けました。

本講習会には、愛知県の高等学校46校から100名ほどの高校生が参加しました。

グループ校特集

名古屋芸術大学
保育・福祉専門学校

滝子幼稚園実習について
保育科教員 宇佐美 すみれ



本校では1年生の時に、滝子幼稚園に年間を通して12回実習に行っています。昼間部の1年生61名の2分の1ずつ、隔週で実施し

ています。入学して間もない5月の連休明けの金曜日に初めての実習があります。「子どもが好き」で入学した学生たちもちょっぴり不安な気持ちを持って実習に臨みます。一日の実習が終わってから「どうだった?」と聞くと、「疲れたけど楽しかった。」と言う答えが返ってきます。初めて、こんなに沢山の子どもと接した学生も多くいます。「どう子どもと話をしているのか分からない。」「身置き場に困った。」「何をすればいいのか分からなかった。」など口々に話します。

初めての实習は1度だけです。学生にとって貴重な経験となります。次の週の月曜日に改めて感想を聞きました。「4歳児なのに友達に気遣いができていた。」「5歳児の子どもが何でもできることにびっくりした。」などと子どもの

発達に様々な思いを持ったり、「先生がすごい。あれだけの子どもをすべて分かっていた。」「先生の言葉で子どもがすぐに反応していた。」「トラブルがあったときに丁寧に一人ひとりの言葉を聴いていた。」など、先生の動きや言葉に感動したりしたようです。1年生では実習はまだ早いと思われるかもしれませんが、本校ではなるべく早く子どもと接することによって子どもを理解することと「子どもが好き。」「子どもに関わる仕事がしたい。」と入学してきた学生に早く現場を経験させたいとの思いから1年生の5月から実施しています。1年間を通して実習に行くので、子どもの1年の育ちを見ることが出来ます。また、後期からは実習記録もしっかり書いていきます。その記録に滝子幼稚園の先生方が丁寧に朱を

入れてくれるのも励みになります。記録が幼稚園から戻ってくると、どの学生も一生懸命に先生からの言葉を読んでいます。そうやって実習を積み重ねていくと、保育科の合同教室に行く時に園庭から学生に「〇〇先生」などと園児から声がかかることもよくあります。また、様々な行事でも実習をしています。運動会や生活発表会などでは子どもたちの立派な姿に涙したり、夏祭りには保護者としての時の子どもの様子がわかったり、子どものすばらしい笑顔を見ることができたりしています。そして、行事を成功させる裏には先生方の並々ならぬ努力があることにも気づきます。同じ滝子キャンパスにある滝子幼稚園だからこそできる実習だと思います。その他にも、合同避難訓練なども実施しています。

かったということでしょうか。ドラマを使った英語教育は、この教育的な経験を可能にし、知性ばかりが感覚をも合わせつつ人間の身体全体を使った経験的な学習の場を提供してくれます。もっともこれはあくまで理想論で、なかなかうまくはいかないのが現状です。学ぶ側に見られる、これまで親しんだ頭脳的な学習への習性がうまく払拭しきれないからです。名芸大でも最初の内は、机に坐ってテキストに向かうという身についた学習スタイルから学生を引き離すのが難しかったり、その羞恥心から人前で台詞としての英語を口に出すことに抵抗が認められたりしましたが、予想外

に早く、ドラマ的な手法を使った学習に学生たちを馴染ませることができたように思います。こうしたドラマを使った学習へのスムーズな導入を可能にしているのは、芸術大学である名芸大特有の学生たちの気質によるものだと考えています。彼らの多くは、鋭い感性が求められる芸術的な表現への傾きを小さな頃から持って育ってきたに違いありませんし、むしろ知識的な学習一辺倒の学校教育に満足できなかった来歴があるのではないかと推測されます。もちろん、私の授業で、ドラマ教育の理想的な形が十分実現されたとは言い難い現状であることも申し上げておかなければなりま

せん。感情を込めた言葉表現のレベルに留まっていますし、表情なども含めた身体的な表現をそれに加えた、本当の意味での豊かな表現には程遠いのですが、それでも教室の前の舞台上に立ち、他の学生に正対して、生きた英語を口に出そうとしている学生たちを見てると誇らしくも感じます。この次の段階へ学生たちが脱皮することは、そう容易なことではないのかもしれませんが、しかしこの感性の大学である名芸大で過ごすという幸運に恵まれた学生たちなら、そのことも可能にできると信じて、この後もドラマを使った英語教育の試みを続けていきたいと考えています。



マスター ↑↓to アーティスト



1972年6月 山本和バイオリンリサイタル 伴奏
「はじめてリサイタルの伴奏をしました。」

【第18回】

<愛するということ>

河原元世

(かわはら もとよ)

大学院音楽研究科
器楽専攻
音楽学部 ピアノコース
教授

1947年 三重県生まれ
1970年 愛知県立芸術大学音楽学部器楽科ピアノ専攻卒業
1972年 愛知県立芸術大学大学院音楽研究科修士課程修了
1972年 本校音楽学部器楽科助手に着任

名フィル新人紹介コンサートにおいて、名古屋フィルハーモニー交響楽団と、ベートーヴェン「皇帝」協演。その後も、名フィル等と、モーツァルトの20番・23番、ベートーヴェンの3番、ショパンの2番、グリーグ、サン＝サーンス等、多数協演。ソロリサイタル、室内楽、器楽・声楽・合唱等の伴奏多数。ラジオ・テレビ出演多数。中部ショパン協会理事、芸術協会会員、日本ピアノ教育連盟会員。

名古屋、岩倉市などとの大学連携講座、ヤマハでの講座などを担当、国内コンクールで審査員を数多く務める。

「みんな教え子たちが持ってきてくれたものなんです……」 ピアノの上には愛らしいテディベア、小さなぬいぐるみ、造花のブーケが所狭しと並ぶ。そして、レッスン室の全ての壁に写真が飾られている。リサイタルや発表会のものだろう、着飾った教え子に寄り添うようにして立ち、にこやかにポーズを取る師弟の写真ばかりだ。「この部

屋で27、8年、もう30年近く経ちます」大学院を修了した'72年から本学で学生たちを導いてきた。240人以上もの学生が指導を受けてきたことになるという。「教えることが性に合っているのか、大好きなんです」。

愛知県立芸術大学、県芸の第一期生だそうである。小さな頃、おもちゃのピ

アノを鳴らして遊んでいたことが、本格的にピアノを始めるきっかけとなる。ここからピアノ一筋、というわけではなかった。誰しもが道に惑うのと同じように、自分の将来に音楽の道が繋がっているとは思っていなかったという。「高校は普通科だったんです。音楽の学校へ行こうとは思っていませんでした。でも、たしか高校3年の2学期だったか、模擬試験の成績が悪くてあっさり進学はあきらめて、やっぱり音楽へ行こうかなって(笑)。ピアノは好きだったけれど、一生涯“好き”のままで終わらせたい、そう思っていました」。当時、付いていた先生が素晴らしかった。「先生に習っている子はみな





4号館玄関前で。はじめての卒業生と。



1976年にはじめての卒業生を送り出してから現在までに実に240人以上の学生を指導してきた。2007年に行われた「河原先生 還暦をお祝いする会」には大勢の門下生がお祝いに駆けつけ、「私の娘も先生に教えて欲しい」など、先生の益々の活躍へのエールを送った。



はじめて名古屋フィルハーモニー交響楽団と、名古屋市民会館大ホールでベートーヴェンの「皇帝」を協演しました。足が震えました。あと、ソロリサイタルや作品発表の写真です。チェンバロも大好きで、よく弾いてきました。



人前で演奏するのが本当に苦手で、演奏会も出たくなかったため息ばかりでした。でも、やっているうちに達成感を感じるようになって。一所懸命練習してあれば、例え舞台上で上手できなくてもいいんです。苦勞して積み重ねたものには、見るべきものがあると思います。



尊敬する大堀敦子先生と一緒に。幼稚園の学芸会のリハーサル。



「ショパン・バラード 第1番～第4番」 演奏：河原元世 ザ・コンサートホール 1997年



動物大好きです。小さい頃から、大型犬8頭、捨て猫5匹、兎3羽、九官鳥2羽、小鳥…多い時は30羽以上、鯉・金魚も多数飼っていました。でも今は海老一匹だけです…。

音大へ進む子ばかりでしたが、普通科の自分も同じように扱ってくださって……」 理知的で、厳しくも温かい指導者との出会いを思わせる。大学に入ってから、心は揺れた。「ほとんどの学生が音高出身でしたから、こんなにも競争の激しい世界なのかと、初めの頃は小さくなっていました。当時、ウィーン国立大学から先生が来られていて、私は、英語も独語もダメで、すごく叱られたことがあるんですが、何を叱られているのかもわからないような状態で……。二人の外国人の先生に付いて、もう本当に、大変でした。でも、その分、勉強になった。その1年で、音楽をやっというふうに思いました」 そして2年生

になって、生涯の師、大堀敦子先生との出会いがあり、ピアノへの思いは、より強く深いものへと昇華していった。

「ピアノはオーケストラと同じ。全て自分一人のできる楽器。激しさも、優しさも、バッハ、ベートーベン、ショパン、いろいろなイメージが表現できる、印象派も現代も……。そして、個人としても同じ演奏は二度とできない。それを全て、自分一人で、できるのがピアノ」ピアノの魅力は、同時に、自分一人で立って進んでいく厳しさでもある。全てを引き受けてこそ、「好き」だけでは得られない、何かが見える。

「心を込めて弾くこと」 学生たちに大事にして欲しいことを問えば「心」と教えてくれた。いくら達者に弾けても心が入ってなければ、聴く人々の心に響かない。「あがったっていいんです。冷静にちゃんと弾くことよりも、ちょっと破綻があったとしても、熱の入った語りかける演奏が胸に突き刺さるものですよ」。「心を込めることなら、誰でも世界で一番になれることでしょう」。「今、一緒に勉強した学生達が、多方面に渡って活躍してくれているのが、何よりうれしく、幸せです」と、微笑んだ。教え子たちの師を慕う気持ちが、少し解った気がした。誰よりも純粋にピアノを愛している。



■第7回ジェームズデザインアワード (日本)

【3位、準国際審査 Top 50 に入賞】

作品名: Water Support Bottle
 デザイン学部
 インダストリアル
 デザインコース4年
 Frederick Phua さん



■美術学生 年賀状デザインコンテスト 2013日-マイプリント

【グランプリ&優秀作品】

デザイン学部
 メディアコミュニケーションデザインコース4年
 西協優季さん



<優秀作品>



<グランプリ>

【優秀作品】

デザイン学部
 デザイン
 マネージメント
 コース3年
 成瀬るなさん



■アートアワードトーキョー丸の内

【アッシュ・ペー・フランス賞】

美術学部
 洋画コース
 2011年度
 卒業生
 水野里奈さん



【加藤泉賞】
 (ゲスト審査員賞)

美術学部
 洋画コース
 2011年度
 卒業生
 上村 静さん



【白目】2010年

■みずなみ陶土フェスタ2012 クレイオブジェコンテスト

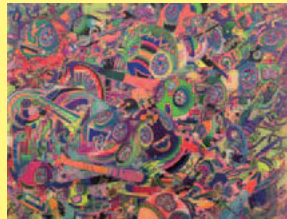
【グランプリ】

作品名: 風神雷神
 チーム名: funny orange
 美術学部造形科2009年度卒業生
 浅井直也さん・小澤直樹さん
 美術学部造形科2010年度卒業生
 志満津 華子さん
 美術学部美術学科2011年度卒業生
 水野 峻さん
 美術学部美術学科4年
 加藤真浩さん
 美術学部造形科彫塑コース
 元非常勤講師
 石田達郎さん



■GEISAI#17 【鈴木心賞】

作品名: 「drive」
 美術学部洋画コース4年
 和田唯奈さん



■2012岐阜国際音楽祭

【グランプリ(全部門から1名のみ受賞)】

ピアノ部門(大学・一般の部)
 1位、岐阜県知事賞、文化人特別賞
 音楽学部ピアノコース3年
 碓 大知さん

■第61回読売教育賞

【最優秀賞(音楽教育部門)】

音楽学部音楽教育学科
 1997年度卒業生
 浦浜麗名さん

■第62回中日書道展

【特選】

美術学部洋画コース1年
 飯田美穂さん
【二科賞】
 音楽学部ピアノコース3年
 中根亜子さん

2012年度 音楽学部演奏会スケジュール (11月~2013年3月)

※予定につき変更になる場合がありますので、事前にご確認ください。
 お問い合わせ先 / (0568) 241-5141

11月

第20回 ピアノの夕べ

日時/11月8日(木) 17:30開演予定
 会場/電気文化会館 ザ・コンサートホール
 入場料/無料(全席自由 整理券あり)

音楽学部第35回定期演奏会

日時/11月15日(木) 18:00開演予定
 会場/三井住友海上 しらかわホール
 入場料/無料(全席自由 整理券あり)

12月

「Earth Echo」電子オルガンコース

日時/12月4日(火) 18:30開演予定
 会場/熱田文化小劇場
 入場料/無料(全席自由 整理券あり)

第31回室内楽の夕べ 大編成の部

日時/12月11日(火) 18:00開演予定
 会場/名古屋芸術大学 3号館ホール
 入場料/無料(全席自由 整理券あり)

第31回室内楽の夕べ 小編成の部

日時/12月20日(木) 18:00開演予定
 会場/熱田文化小劇場
 入場料/無料(全席自由 整理券あり)

2月

平成24年度 研究生修了演奏会

日時/2月7日(木) 18:00開演予定
 会場/電気文化会館 ザ・コンサートホール
 入場料/無料(全席自由 整理券あり)

カレードスコープ2013(仮称)

日時/2月9日(土) 18:00開演予定
 会場/愛知県芸術劇場小ホール
 入場料/未定

第11回 歌曲の夕べ

日時/2月9日(土) 18:30開演予定
 会場/電気文化会館 ザ・コンサートホール
 入場料/無料(全席自由 整理券あり)

第17回 春のコンサート ピアノのしらべ

日時/2月14日(木) 17:30開演予定
 会場/電気文化会館 ザ・コンサートホール
 入場料/無料(全席自由 整理券あり)

オペラ公演「ヘンゼルとグレーテル」

日時/2月21日(木) 18:30開演予定
 会場/名古屋市芸術創造センター
 入場料/1,000円(全席自由)
 演出/澤脇 達晴

大学院音楽研究科特別演奏会

日時/2月26日(火) 18:00開演予定
 会場/電気文化会館 ザ・コンサートホール
 入場料/無料(全席自由 整理券あり)

アンサンブル・フィラルモニク・ア・ヴァン

第14回定期演奏会

日時/2月27日(水) 18:15開演予定
 会場/長久手市文化の家 森のホール
 入場料/1,000円(全席自由)
 指揮/ヤン・ヴァン デル ロースト
 小野川 昭博

第40回 卒業演奏会

日時/2月28日(木)/3月1日(金)
 18:00開演予定
 会場/三井住友海上 しらかわホール
 入場料/無料(全席自由 整理券あり)

3月

第15回大学院音楽研究科修了演奏会

日時/3月7日(木)/3月8日(金)
 18:00開演予定
 会場/三井住友海上 しらかわホール
 入場料/無料(全席自由 整理券あり)

ミュージカル公演公開リハーサル

日時/3月9日(土) 18:00開始予定
 会場/名古屋市芸術創造センター
 入場料/無料(全席自由)

ミュージカル公演(演目未定)

日時/3月10日(日) 14:00開演予定
 会場/名古屋市芸術創造センター
 入場料/1,000円(全席自由)

アート&デザインセンター 2012展覧会スケジュール (11月~2013年3月)

11/ 2(金)~11/14(水)	2012年度企画展 「Open your eyes 一生きる術としてのアート」
11/16(金)~11/21(水)	MCD デバートメント
11/23(金)~11/28(水)	「幼稚園児たちのゲイジツ」展
11/23(金)~11/28(水)	「Hand Hospesace; 医療と美術」展
11/30(金)~12/ 5(水)	「AFTER DENMARK;坂本麻貴×鈴木京」展
12/ 7(金)~12/12(水)	こどもの空間 絵本と椅子
12/ 7(金)~12/12(水)	2012年度 後期交換留学生作品展
12/14(金)~12/19(水)	デザイン学部MMDコース展
12/21(金)~12/26(水)	工芸領域 2・3年生展
1/11(金)~ 1/16(水)	日本画 3年作品展
1/11(金)~ 1/16(水)	「教員によるコレクション 二人の作家の版画展」
1/18(金)~ 1/23(水)	美術学部コース展
2/19(火)~ 2/24(日)	卒業制作展
3/22(金)~ 未定	デザイン学部 レヴュー選抜展

Open/ 12:15~18:00
 (最終日は17:00まで)
 日曜・祝祭日原則休館
 詳しくはお問い合わせ下さい。

※会期・内容は変更になる場合がありますので、事前にご確認ください。
 【入場無料】どなたでもご覧いただけます。
 お問い合わせ先 / (0568) 24-0325



表紙の写真

荒木 弘訓先生
 (美術学部 日本画領域 教授)
 名古屋市昭和区のご自宅アトリ工風景



【牡丹】2011年



【白目】2010年

普段は見ることのできない制作中の作品とともに。「『普通』に描くという事の難しさや良さが最近になってわかって来ましたね」絵と対話しながら、日本画の行方への思索は続く。(9/18撮影)

発行:名古屋芸術大学
 編集:全学広報誌編集委員会
 制作:(株)クイックス
 発行日:2012年11月10日

【お問い合わせ先】
 名古屋芸術大学 広報企画部
 〒481-8502
 愛知県北名古屋市熊之庄古井281番地
 電話 0568-24-0359
 FAX 0568-24-0369
 E-mail: grouptu-shin@nua.ac.jp



大学基準協会の認定評価を再取得しました

本学は2011年4月に、大学基準協会の大学基準に適合と認定され、認定評価を再度取得しました。認定期間は、2011年4月から2018年3月までです。これにより、法令化されている「第三者による認定評価」にも合格したことになります。